

# 長崎の林業

小曾根星堂書



銘木巨樹の観察（吉崎市）

12

## 目次

- 林政だより 市町の体制を支援する  
「地域林政アドバイザー」研修会を開催！ ..... 2～3
- 特集記事 長崎南部森林組合の緑の雇用就業者にインタビュー ..... 4～5
- 林業普及だより 林業事業体連携の取り組み－島原－ ..... 6
- 地方だより・壱岐 小学生による林業体験 ..... 7
- 地方だより・対馬 厳原北小学校しいたけ学習 ..... 8
- 林業団体情報 平成30年度「森林の仕事ガイダンスinながさき」開催 ... 9
- センターだより 花粉症対策品種の開発の加速化事業 ..... 10
- 紹介コーナー 長崎県立長崎高等技術専門学校「みんなの技能のひろば」... 11
- 県民の森であそぼう！ もりフェスタ～長崎県民の森開園50周年記念行事 ... 12



2018  
No.759

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！



この用紙は、日本の森林を育てるために  
間伐材を積極的に使用しています。

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。  
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

# 市町の体制を支援する 「地域林政アドバイザー」研修会を開催！



タブレットを片手に集合写真

## 地域林政アドバイザー研修会開催

平成30年6月号の長崎の林業にてご紹介しました「地域林政アドバイザー」制度を県内で活用するため、平成30年11月に長崎県庁で地域林政アドバイザー研修会を開催しました。

研修参加者は、森林組合、林業公社、林業コンサルタント、市役所の皆さん、計17名です。

地域林政アドバイザーは市町の体制を支援するため平成29年度に創設された制度です。その要件は、森林総合監理士や林業普及指導員、林業技士、技術士（森林部門）、認定森林施業プランナーを有する方々に加え、林野庁が実施する研修またはそれに準ずる研修を受けた方が対象となります。今回、長崎県では林野庁より研修開催の認定をうけ、本県での開催となりました。

## 研修内容のご紹介

研修は、次の分野で行いました。

- ・長崎県の施策  
ながさき森林環境税、木材利用、特用林産、治

## 山事業等

- ・森林計画制度、森林法令  
市町村森林整備計画・伐採及び伐採後の造林の届出等制度・森林の土地の所有者届出制度・林地開発制度、保安林制度
- ・森林経営  
森林経営計画の作成、境界明確化、施業集約化
- ・森林整備  
伐採・造林及び路網整備の技術や実務
- ・森林情報の活用  
林地台帳の整備・運用、森林GISの活用



地域林政アドバイザーによる活動事例の紹介

外部講師は、地域林政アドバイザーの取組みを実施している長崎南部森林組合大村支所に依頼しました。森林組合が大村市と連携して、森林経営計画の作成や施業集約化、認定森林施業プランナーの育成に取り組んでいる事例を講義いただきました。

森林 GIS の活用では、長崎県森林整備空間情報システムを活用し、林地台帳・森林経営計画・林分調査・作業道の線形検討といった森林情報を活用する演習を行いました。さらに、屋外でタブレットを活用した位置情報を取得し、森林 GIS での活用する方法についても演習しました。



屋外でのタブレットを使った森林情報の活用

## 研修受講者の感想

今回は、地域林政アドバイザーとして市町の担当者の目線で研修に望んでいただきまし

た。参加者の皆さんは、市町の業務は多岐にわたっていることに改めて驚かされていました。

今まで直接関係なかった制度も今回の研修で理解を深めていただいたことで、「通常業務の中でも注意して森林をみていきたい」、との感想もありました。また、「市町では窓口対応もあることから、法制度をしっかりと理解しておく必要がある」など、市町職員の皆さんが普段から気をつけている点に注目する方もいらっしゃいました。一方、所有者の視点で考えると「制度がわかりにくい」、「手続きについて教えながら一緒に対応すべきでは」、といった業務改善の提案もありました。

## 今後の取組みについて

地域林政アドバイザー研修を受講された皆さんには名簿へ登録いただく予定です。その登録者名簿は市町へ配布し、今後、地域林政アドバイザーとして活躍いただくことが期待されます。

今後も市町の体制支援を続けていくことが森林整備につながることから、県では引き続き地域林政アドバイザーの育成に取り組む計画です。地域林政アドバイザーに関するお問い合わせは、市町の林務担当課、または県庁農林部林政課森林管理班（095-895-2984）までご連絡ください。

（林政課 森林管理班）

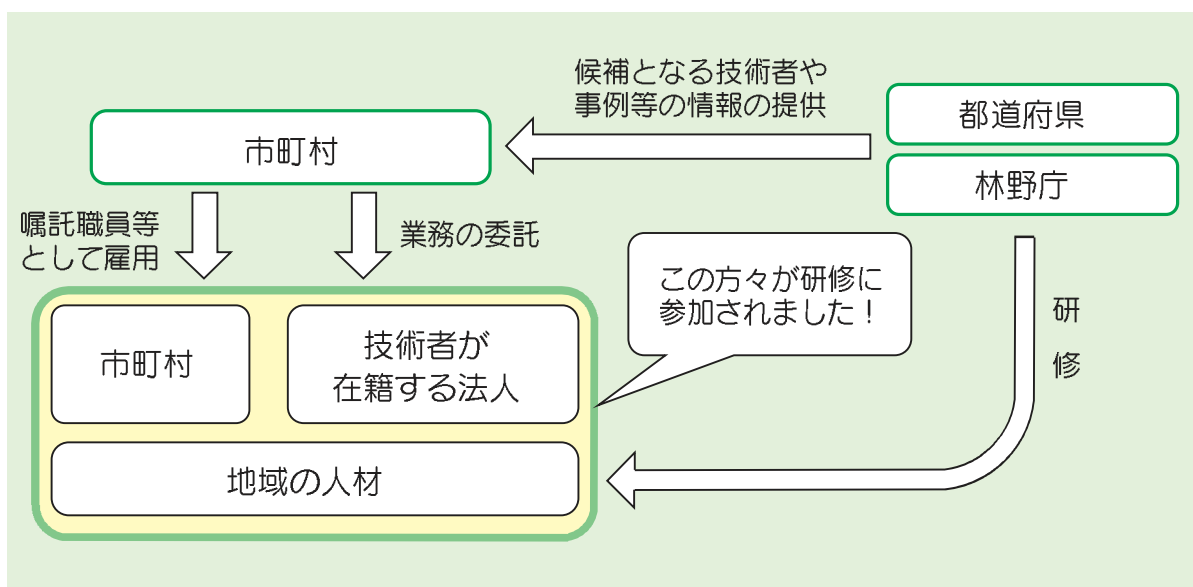


図 地域林政アドバイザー制度のスキーム

【特集記事】



長崎南部森林組合の  
緑の雇用研修生にインタビュー

長崎南部森林組合には、緑の雇用研修生が9名いらっしゃいます。各人は4つの支所に配属され研修中で、現場で林業技術の取得や研鑽に日々努力しておられます。

今回は、長崎南部森林組合で緑の雇用研修生として活躍している9名を取材させていただきました。

緑の雇用事業とは？

森林を元気な状態に維持管理して、持続的な林業を展開していくためには、林業専門作業員の確保が何よりも重要です。

県内の林業専門作業員数の内訳をみると、65歳以上の作業員の比率が増加傾向にあり、若手の新規労働力の確保こそが森林を元気にする源であるといっても過言ではありません。(図2)

国では、平成15年度に緑の雇用事業を創設して、新規労働力の確保に努めています。県内の実績は、図3のとおりです。

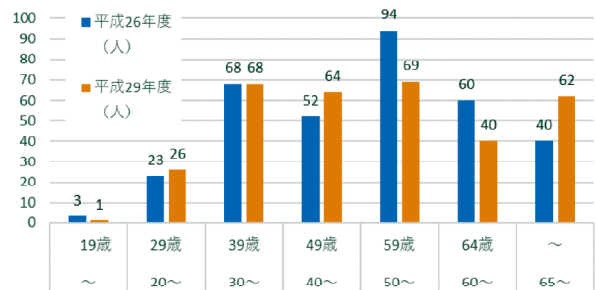


図2 林業専門作業員の年齢構成

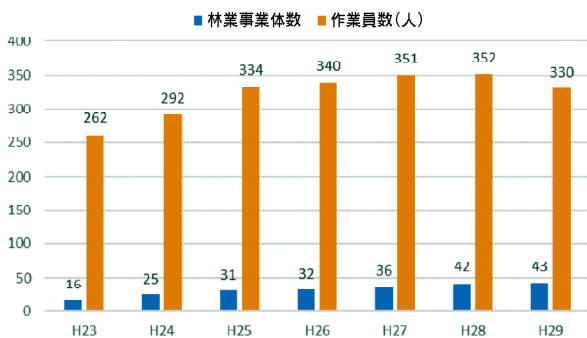


図1 林業専門作業員の推移

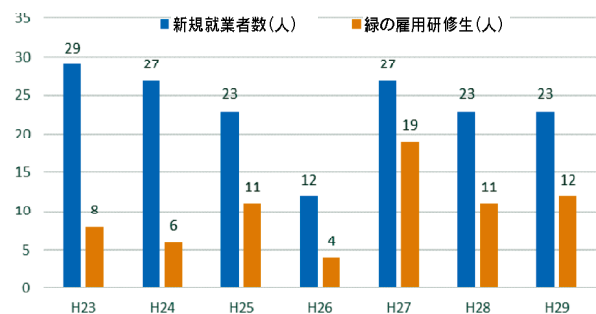


図3 新規就業者の推移

## 緑の雇用研修で学ぶこと

緑の雇用の研修期間は3年です。研修内容は、刈払い機やチェーンソーの取り扱いはもとより、玉掛け技能、集材装置付グラップルやフォワーダなど高性能林業機械の操作方法、労働安全衛生など林業労働で必要とされる技能のすべてを学びます。

## 応募した動機

9名中3名については、自然の中で労働できることに魅力を感じて応募されたようです。

前職について質問したところ、夜勤で半導体を製造したことや自動車整備に従事して残業時間が長かったなどの答えが返ってきました。また残業時間に関係なく自然の中で仕事をしてみたかったとの回答もありました。

## 緑の雇用研修生になって嬉しいこと

研修生が努力して生産した木材は、国内はもとより、中国や韓国にまで輸出されています。韓国では特に内装材として好評を博しているとの情報に接するたびに、自分たちの努力が報われた気持ちになることができます。長崎ヒノキの将来性を見る思いです。

## 研修で苦労したこと

表1に示すとおりですが、林業労働に慣れるまで各人それぞれ苦労されたようです。

しかしながら、今では楽しいことばかりとの前向きな意見も飛び出しました。

## 林業労働の難しさ

林業労働は朝に仕事を始めて、夕方には作業を終了してしまいます。当然、残業は発生しません。一方で雨天時には作業ができず、結果として日給月給制となってしまうので、林業作業員としての継続的に従事することの難しさを指摘された方もおられました。

## 緑の雇用研修生に期待すること

戦後造林された植林地は、下刈、除伐、

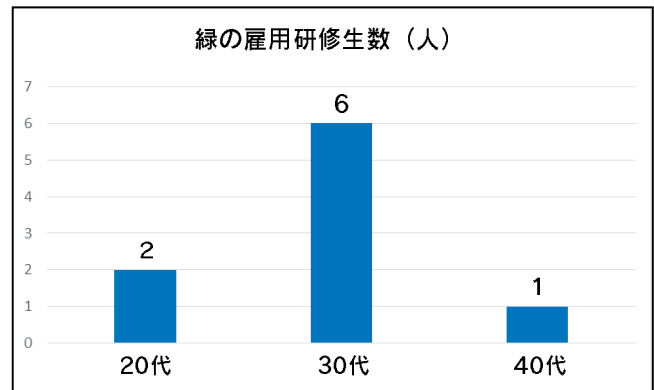


図4 緑の雇用研修生の年齢組成

表1 緑の雇用で苦労したこと

①	伐倒のやり方が分らなかった
②	山歩き、足場の確保、集材、伐倒方向など初めての経験で大変だった
③	鳥取県の出身で長崎の方言がわからず苦労した
④	傾斜地の除伐作業に苦労した
⑤	マムシに何回も遭遇した
⑥	チェーンソーを持って現場を移動することが大変

枝打ち、保育間伐など幾多の育林作業を経て成熟し、今や搬出間伐を実施するまでになりました。

取材させていただいた長崎市長浦町の神上集落林や諫早市白木峰町の市有林では、林内の要所に作業道が張り巡らされ、高性能林業機械を駆使した集材作業が行われていました。

これからの林業労働者には、作業道を自在に敷設出来ること、集材装置付グラップルやフォワーダなどの高性能林業機械を操作してコストをかけずに木材生産できる人材が求められています。

緑の雇用研修生こそが明日の林業を担う人材です。

(NPO 法人 地域循環研究所)

## 長崎南部森林組合 (本所)

〒856-0804 大村市大川田町 990-1

TEL : 0957-55-6610、55-8238

FAX : 0957-55-3143

林業普及だより

# 林業事業体連携の取り組み



## はじめに

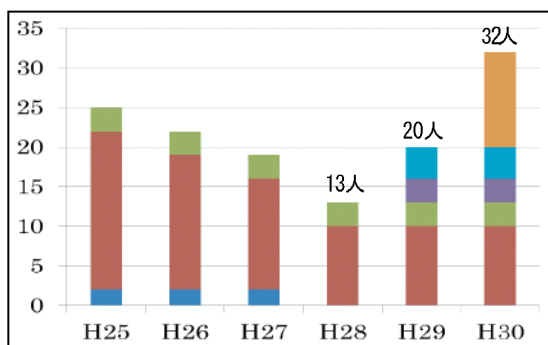
成熟した森林資源を活用し、森林を健全な状態に保つためには、間伐等の森林整備作業を担う森林組合や林業事業体の方々の役割はとても重要です。

しかし、島原半島には林業事業体が少なく担い手不足が大きな課題となっていました。

これらを少しでも解消して島原半島の林業成長産業化に繋げるために取り組んでいますので、H29年度からの経過をご報告します。

## 林業事業体の確保

H28年度の林業事業体は、森林組合ほか2者（作業員13人）でしたが、林業参入への働きかけにより、H29年度に2者（7人）が加わり、更にH30年度に1者（12人）が加わった結果、合計5者（作業員32人）の担い手を確保することができました。



## 林業事業体の連携

新規参入の事業体は異業種からの参入であり、搬出間伐等の経験は少なかったのですが、本業で培った得意分野（土工・木材伐採技術等）は、林業分野でも活かせる技術力でもあります。

それを発揮してもらうためには、森林組

合や他の林業事業体と連携しながら、林産を進めてもらうことが近道になると考え、まずは、事業体同士の関係を築くことから取り組みました。

H29年度に2回、H30年度に2回の「林業事業体による成長産業化検討会」を開催しました。各事業体の林産状況や作業システムの情報交換、協力体制のルール等を協議しました。

協力体制のイメージとしては、Forest Joint Venture（林業版の共同事業体・略してFJV）で、島原半島内の林業事業体が結集して林業の成長産業化を目指すものです。これらの取り組みの結果、H29年度は3件の現場でFJVによる作業が実現しました。H30年度も4件のFJVを見込んでいます。



## 今後について

異業種から参入した事業体が、本業を行いながら効率的に林業に参画できるようFJVの現場調整を支援していく必要があります。また、得意分野の技術を発揮してもらいつつ、新たな作業種も一緒に行うことで作業員相互の技術向上と事業体全体のレベルアップに繋がっていきたいと考えています。

今後、林業事業体の連携により、島原半島の林業活性化に繋がるよう、支援していきます。

（島原振興局 林務課）

地方だより

## 小学生による林業体験

— 壱岐 —



壱岐市の渡良小学校、三島小学校の児童たちが、間伐体験、木工体験、銘木巨樹の観察を行いました。この活動は県の「ふるさとの森林づくり事業」を活用し、壱岐市林業研究同志会が実施しました。

同志会の皆様は、「子供たちに夢を、若者に希望を、お年寄りに生きがいを」をスローガンに壱岐島内の自然を次世代に引き継ぐべく日々活動をされており、毎年壱岐市内の小学生を対象に環境教育を実施しています。

今回も活動を通して子供たちに森林の役割を知ってもらうとともに、木に触れる機会をもってもらおうと計画されました。

間伐体験に参加したのは渡良小5年生15人と三島小全校児童6人で、4班に分かれ壱岐市森林組合の指導のもと、ヒノキを各班1本ずつ切り倒しました。交代でノコギリを使い、木が倒れるときには歓声を上げて喜んでいました。

間伐体験を終えた後は郷ノ浦町平人触にある島内最大のエノキ（にれ科）を見学しました。幹囲が5.96mあり、何人で手を繋いで囲めるか実験しました。

その後の木工体験には渡良小4、6年生25人も加わり、6班に分かれて6台のベンチを作りました。子供たちは同志会会員の指導のもと、ノコギリやかなづちを使いながらみんなで協力してベンチを完成させました。今回作ったベンチは、地域の方にも使ってもらいたいとのことから、市内の離島を繋ぐフェリーみしまの各発着所に寄贈されました。（郷ノ浦、渡良、長島、大島、原島発着所）

今回の活動は未来を担う子供たちにとって貴重な体験となりました。今後もこのような活動を支援し、次世代の森林を守り育てていく人材の育成に繋がっていきたいと思います。

（壱岐振興局 農林整備課）



地方だより

# 巖原北小学校しいたけ学習

—対馬—



対馬市立巖原北小学校 3 学年では、「総合的な学習の時間」を活用し、対馬市の特産品である「対馬しいたけ」について、学ぶこととしています。

9月18日(火)に林業普及指導員が小学校に赴き、しいたけに関する基礎知識について講義を行いました。

インタビューだけでなく、収穫やしいたけ(生・乾)のパック詰め作業を体験し、ハウス栽培施設・露地栽培ほだ場を見学しました。



その講義内容を基に、児童が疑問に思ったこと、興味を持ったことを取りまとめ、10月12日(金)にJA 対馬に、10月15日(月)には(株)翔榮としいたけ生産者(吉田永氏)にインタビューに行きました。

JA 対馬では流通・販売に関して、(株)翔榮では生産・販売の工夫など、吉田さんには散水管理などについて聴き取りをしました。



ハート型のしいたけ ♡

しいたけの発生には、低温刺激が必要なこと、十分な灌水が必要なこと、発生させたい前には、水を極力与えないようにすることなど、たくさんの学びが得られました。



吉田永さんのほだ場では、先日の台風で数本木が倒れており、ほだ場内の上空が大きく開けていました。自然環境下での光調節が難しいことを児童と一緒に学びました。

(対馬振興局 林業課)



林業団体情報

# 平成30年度「森林の仕事ガイダンスinながさき」開催



平成30年10月13日(土)、時津町北部コミュニティセンターにて、長崎・西海地区の「森林の仕事ガイダンス in ながさき」を開催致しました。多くの皆様にご来場いただき感謝申し上げます。

本ガイダンスは、森林・林業に関心を持つ方や就業を考えている方を対象にした説明・相談会です。会場には、森林組合や林業事業体が相談ブースを設け、林業の仕事内容、就業についての説明や相談他、県内の森林・林業の情報などを提供いたしました。

来場者の方より、資格や経験の有無、研修制度など様々な質問があり、林業への関心の高さや就職への意欲をうかがわせるものでした。



また、現場で使われる道具の実物を展示しているコーナーでは、来場者の方がチェーンソーや防護服を手に取り、その重さや素材を確かめていました。なかでも、防護服については、来場者の方の関心が高くスタッフに質

問する方が多く見受けられました。

そして、会場には、大半の来場者の方が、現場の仕事内容や高性能林業機械などのパネルを興味深く見入っていました。



チェーンソー等、道具の展示

特に、来場者の方の関心を強く引いたのが、チェーンソーによる伐倒の労働災害を疑似体験できる「VR（バーチャルリアリティ）」でした。体験された来場者の方より「VRを体験することで林業の具体的な仕事のイメージが湧いたと」好評でした。



VR体験の様子

本年度はガイダンスを県内各地4か所で実施することができました。ご来場の方はじめ、ご協力頂きました関係者の皆様方に感謝申し上げます。

林業の仕事に興味のある方は、長崎県森林組合連合会までお問い合わせください。

長崎県森林組合連合会事務局：0957-27-1755  
(長崎県森林組合連合会)

センターだより

# 花粉症対策品種の開発の加速化事業

## はじめに

花粉症は、国民病とも言われており、これまで、花粉症対策スギ品種の開発や、苗木の供給等の取り組みが進められてきました。しかしながら、全国の花粉症対策スギ苗木の供給量は全体の2割に留まっているのが現状です。

このような中、平成29年度から5年間、林野庁の「花粉発生源対策推進事業」のうち「花粉症対策品種の開発の加速化事業」として、森林総合研究所林木育種センター（以下、林木育種センター）を中心に調査を行います。

現在、花粉症対策品種の選定のためには、15年生以上のスギの雄花着花量を、5年間計測しなければならず、結果が出るまで植栽後20年以上の期間を要しています。その期間を大幅に短縮するために全国数ヶ所でスギ雄花着花特性を明らかにします。

## 調査内容

県内の実生スギ3本を「雄花着花性に関する特性調査要領（スギ）」に基づき総合指数を評価する。

評価したスギを伐倒し、実際の雄花の着花量を計測する。

現状の総合指数と実際の雄花量との関係を調査する。

## 長崎県での調査

長崎県では、総合指数の評価と、スギを伐倒し、雄花の採取を行います。その後、林木育種センターにて雄花着花量の計測、総合指数と実際の雄花着花量について調査が行われます。

この調査で、花粉症対策品種の選定にかかる期間が短縮され、花粉発生源対策が推進されることが期待されます。

（長崎県農林技術開発センター）

〔調査方法〕

- ① 調査を行う個体の樹冠を上部、中部、下部に区分する。
- ② 樹冠のそれぞれの部位について下図を参考に目視により、雄花の着生している枝の割合を以下の基準で5段階に区分する。  
4：3/4以上、3：1/2以上3/4未満、1/4以上1/2未満、1：1/4未満、0：なし
- ③ 樹冠のそれぞれの部位について、1枝当たりの雄花の着花数を以下の基準で4段階に区分する。  
3：100穂以上、2：10穂以上100穂未満、1：10穂未満、0：着生なし
- ④ 雄花着生枝の割合と枝当たりの雄花着生数の指数を個体ごとに集計し、次の基準で5段階の総合指数値に区分する。

総合指数	着生割合合計	着生数合計
5	： 12～10	9～8
4	： 9～7	7～5
3	： 6～4	4～3
2	： 3～1	2～1
1	： 0	0

雄花着花性に関する特性調査要領（スギ）（抜粋）



スギの雄花



スギ雄花採取状況

## 紹介コーナー 長崎県立長崎高等技術専門校 「みんなの技能のひろば」(西彼杵郡長与町)



スライド式小物置き

傘立て



ままごとキッチン

### 長崎県立長崎高等技術専門校

〒851-2127

西彼杵郡長与町高田郷 547-21

TEL : 095-887-5671

FAX : 095-813-5676

長崎県立長崎高等技術専門校は、西彼杵郡長与町に位置する職業能力開発施設です。県内産業の即戦力となるべき技術・技能者を養成しています。

毎年、施設の開放イベントとして「みんなの技能のひろば」が開催されています。このイベントでは、専門校生が訓練の中で製作した木工作品の展示即売会や、ものづくりの体験教室、地域の物産展などの他、様々な催し物を行っています。

今年は11月18日の日曜日に開催され、建築設計施工科の作品展示即売では、書類棚、まな板、ままごとキッチン、テーブルセット等の木工作品が展示販売されました。

材料は地元の材木店で仕入れており、主にヒノキとスギが使われているそうです。いずれも手頃な値段で購入することができ、人気な為に毎年どの作品も売り切れるほどの盛況ぶりです。

未来の匠が作る、木で出来た立派な作品の数々は、木の香りが心地よく温かみを感じるものばかりです。例年開催されておりしますので、ぜひ、来年は足を運ばれてはいかがでしょうか。

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

平成30年11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	19,500	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	18,300	少ない	多い	多い
	20~22	直	18,700	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	17,400	少ない	多い	多い

### 【スギ】

平成30年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,600	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	14,100	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

## 県民の森であそぼう！もりフェスタ ～長崎県民の森 開園50周年記念行事～

今年開園50周年を迎えた長崎県民の森(長崎市神浦北大中尾町)で、平成30年11月25日(日)に「県民の森であそぼう！もりフェスタ」が開催されました。穏やかな秋空の下様々なイベントが行われ、3,000名以上の来場がありました(林政課森林活用班調べ)。

### 記念式典・記念植樹

午前 9:30 からのオープニングセレモニーの後、主催者、国会議員、県議会議員、県内市町長等多くの来賓が出席しての記念式典がスタート。その後、記念植樹が行われ、一般参加者も交えて、長崎県の花木であるツバキや県内 21 市町のシンボルの木や花木、東日本大震災支援への感謝として福島県から贈られたサクラ等が植栽されました。



記念植樹の様子

### 森の音楽祭

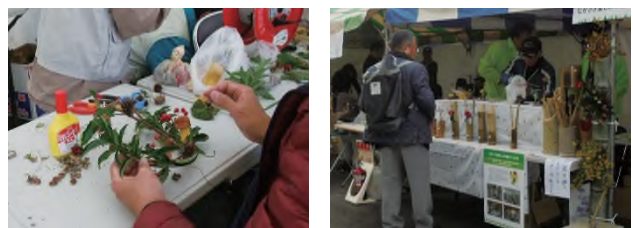
ステージでは、12:20 から「森の音楽祭」が開催。二胡、合唱、シャーマニックユニットによる歌と踊り、ハンドベル、県警音楽隊、トランペットとピアノのデュオといった多彩な演奏が披露され、子どもから大人まで沢山の人が聴き入りました。また、ステージではその後チェーンソーアートの実演も行われ、普段なかなか見る機会が無いチェーンソーに興味深く見入る人もいました。



### 森のマルシェ

園内では“来て・見て・ふれて・体験”する様々なブースも登場。体験ブースは、竹細工やクリスマスリース等の木工体験、森林ウォーキング、ネイチャーゲーム・自然ウォッチング体験、薪割り体験、林業体験等盛り沢山の内容。販売・飲食

ブースでは、木工品・竹細工、手作り雑貨・アート作品や地域農林産物等の販売・展示の他、カツカレーやたこ焼き等の出店も並び、どこも大盛況でした。



### 森林館前芝生広場

森の動物園のコーナーには、バイオパークからリクガメやコンゴウインコ等沢山の動物達が登場。また、森の遊園地として、丸太の基地やシーソー、ブランコ、ハンモック等の木製遊具も。午後の山かけあがり大会には100名程が参加し、終日親子連れで賑わいました。

(NPO 法人地域循環研究所)



長崎の林業 12月号 第759号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2988  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp